

令和4年度甲賀市スポーツ推進審議会 概要報告

1. 開催日時 令和4年8月18日（木）午後7時30分から午後9時15分まで
2. 開催場所 甲賀市役所別館 1階 101会議室
3. 議題 *協議事項
・スポーツ推進計画の重点施策について
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者 委員 小澤委員、山崎委員、福井委員、大原委員、宇田委員、谷口委員、村上委員、倉谷委員、永井委員、青野委員、釜谷委員
以上11名
事務局 西村教育長、教育委員会事務局山本教育部長、田村次長
社会教育スポーツ課 三日月課長、本庄課長補佐、藤谷係長
国スポ・障スポ推進室 北村室長
6. 傍聴者数 0人
7. 会議資料
・甲賀市スポーツ推進計画
・協議資料 甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況について
・令和3年度甲賀市スポーツ推進審議会 概要報告
・第3期スポーツ基本計画（概要）
・協議資料 令和5年度から令和7年度までの重点施策

8. 議事の概要

○出席委員数の報告

審議会委員12名のうち、出席委員が11名であることから、甲賀市スポーツ推進審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立していることを事務局から報告。

○スポーツ推進計画の重点施策について

会長 今、事務局から説明していただきましたが、まず、前半は、甲賀市スポーツ推進計画の進捗状況についてということで、現在進行形もありますが説明していただきました。後半は、令和5年度から7年度までの重点施策として説明していただきました。事務局から説明がありましたように、今日は、これからの3年間どのような施策を進めていくべきかということについて、委員の皆様それぞれの立場でのご意見を頂戴したいと思います。ここができていないというようなご意見もいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。5つの基本方針がありますので、まず、進捗状況についてご意見をいただき、

次にこれからの施策についてご意見をいただければと思います。お気づきの点からでも結構です。資料がたくさんありご意見が出にくいと思いますが、事務局で特に意見をお伺いしたい項目はありますか。

事務局 それぞれの団体の活動内容を把握していない部分がございますので、ご説明した内容の修正や補足があればお伺いしたいのと、そこから重点施策についての修正があればぜひご意見をいただきたいと思います。

会長 それぞれのお立場でご意見がございましたらお願いしたいと思います。

委員 初めての方もおられますし、全体に資料があまりにも多すぎるので、一読は頂いたと思いますがこの中でポイントになる部分があって、A3判の資料が令和4年度までのことをまとめているもの、それと令和5年度から7年度の重点施策の2本立てで話が進んでいると思います。その中でポイントとなる部分として、カラー刷りの国の第3期スポーツ基本計画の概要の裏面のとおり、馴染みのない言葉が増えているという変化があると思います。スポーツ界におけるDXなど技術的進化をスポーツに取り入れてくださいということ、また、スポーツ団体のガバナンスコードについて、企業では重視されますが耳慣れない言葉が入ってきていると思いますが、これらは国の施策の変化ですので、これに対応しながら甲賀市のスポーツ計画も準じていくという流れになってくると思います。ですので、A3判の資料にあるような継続的に進めていただいているような部分とちょっと変化している部分、それと2025年に滋賀県での国スポ・障スポ大会が来ますので、それに合わせて機運が高まっている状態の中でスポーツ環境やスポーツの指導、並びに市民に対するスポーツの提供をどうしていったらいいかというところがポイントになると思います。今までの計画になかったDX、コンプライアンス、ガバナンスなどは市の計画にも入っていませんので、それを踏まえていくのが来年度以降になると思います。いずれにしろ、それぞれの団体の活動の中身が統一ではなく専門的なので、どれがどうかといった質問がしにくいのではないかと思います。国の変化があるので、市も準じていくことになるということをご理解いただければと思います。

会長 少し絞った形で説明していただきましたが、今、おっしゃっていただいたようなことを話題にしていなければつなげていくのではないかと思います。

委員 整理をしていかなければいけないと思いますが、市の計画の中で国スポなどの競技スポーツと生涯スポーツという中で、例えばスポーツ推進委員の一般の方への指導、健康推進員運動部でされていること、総合型地域スポーツクラブがやっていることと、それぞれの活動でお客さんの取り合いのような状況が生まれています。さらに夢の学習まで総合型地域スポーツクラブの活動分野に入り込まれている形になっており、同じ補助金をいただいて活動しているので、その部分を整理した方がいいのかなと思います。障がい者スポーツの分野でも、総合型地域スポーツクラブは県に補助金をいただいて活動していますし、障がい者スポーツ協会でも同様です。ボッチャなど国スポ・障スポ大会に向けてクラブチームをつくってやっていきたいという方もいらっしゃいます。その相談が総合型地域スポーツクラブにありましたが、競争目的であれば競技の分野になりますし、競争というより継続的に楽しみたいということであればこちらになるのかなと思いますが、そういったすみわけが課題になっています。また、総合型地域スポーツクラブで全国的に話題となっているのは、中学校部活動の土日の地域移行についてどうする

のかということです。課題の中には入れていただいているが、市の方針として具体的にどうするのか、どこがそれを担うのかが課題です。競技だけならスポーツ協会の各競技部の方が来られれば指導できると思いますが、その中に教育的な価値観とか、単に子どもを上手にするだけでなく、教育としてスポーツや部活動の中で解決していったものがあるということが、全国の議論の中でも抜けています。システムだけつくればよいというような感じになってはいますが、それは無理があるので、総合型地域スポーツクラブとしては、現場をよく知っている学校の先生のOBの方がたくさんおられるので、そうした方を市に雇用していただき実施されればよいと思います。そこを安価で実施しようとするとうようなトラブルになってくるというのが現実的な問題としてありますし、各委員はお詳しいと思うのでそうした交通整理をお願いしたいと思います。また、ガバナンス、コンプライアンスについてですが、日本スポーツ協会による登録認証制度について、県下24クラブのうち市内は8クラブすべてが認証いただく予定であり、市内のクラブすべてというのは甲賀市だけです。今までの推進計画によりきちっとできている結果ですので、そこは評価していただきたいと思います。最終的には再来年になりますが正式に登録クラブとして活動できますので、その評価はしっかりできると思います。ガバナンスコードもきっちり出していきますし、コンプライアンスもきっちり守っていきますし、登録をとるというのはそういうことになります。その中でちょっとでも助けられるなら、中学校の部活動についてもやっていきたいと思います。ただ、土山学区だけはクラブがないので、設立を進める段取りですが、立ち上げの時の人材がなかなか厳しい状況ですので、市でOBなどにも助力を求めるなどの協力をいただきたいと思います。総合型地域スポーツクラブの立場から課題などについて言わせていただきましたが、スポ少も日本スポーツ協会の計画では、最終は一緒にやっていくことになっているので、協力していかなければと思います。

会長 目的は1つだと思います。それぞれの団体のいいところを生かしながらしっかりとすみわけできれば協力しあえるということをお願いいたしました。

委員 スポーツ少年団は、小学生だけでなく3歳から入れます。栗東市では実際に入っておられると聞いています。甲賀市では、年に2、3回、日本スポーツ協会が立ち上げましたアクティブチャイルドプログラム(ACP)という幼児を対象とした運動遊びプログラムを実施しています。スポーツ少年団の普及委員が県内では11人いますが、その1人として県下を回らせていただき、甲賀市は条件が整っていると感じています。スポ少はクラブと違って保護者や指導者を対象とした研修などを実施しており、子どもたちだけでなく保護者にも参加していただき成長してもらおうようにしています。保護者を巻き込んで親子みんなが成長していこうというのが一番の目的ではないかと思っています。もちろん、トップアスリートを目指す方もいらっしゃいますがほんの一握りです。普段の親子の関わり、相手の方に対する感謝の気持ちなど社会に出ていく力を育てるための活動をしています。甲賀市の子どもたちがスポーツに関わって高齢まで続けていけるような、地域を盛り上げていけるような形ができることが目的ではないかと思っています。市民がみんな健康でスポーツできることが一番ですし、甲賀市にはそのための施設も多いと思います。スポ少は指導者としての人材をいっぱい持っています。指導者は自分が指導してきたからではなく、日本スポーツ協会のスタートコーチの資格を取得することで

指導でき、その資格にはお金を払っています。そうした資格を持った方がたくさんおられます。例えば甲賀町では有名な野球選手がおられますし、すごくいい人材がたくさんおられると思います。以前、学校の働き方改革に関する会議に出たことがあります。定年になったシルバー世代を活用したらという話もありましたので、そうした発掘については協力して市を盛り上げていきたいと思っています。指導者は、ボランティアでやっています。子どもが好き、スポーツが好きという人がたくさんいますので、甲賀市でも登録制度をつくっていただければどうでしょうか。何とか甲賀市が元気になる方法を見つけていきたいと思っています。

会 長 それぞれのお立場でご意見をいただければ5つの基本方針にかかわってくると思います。それぞれお話しただいて事務局で参考になるところを生かしていただきたいと思っています。盛り沢山すぎてそれぞれのお立場で来られているので絞りにくいところもあります。指導者の問題もありますし、来年度から中学校部活動の地域移行の問題もあります。中学校部活動の地域移行については、早速来年から始まっていきますが、市としてどうするのかというときには、この場での意見が生きてくるのではないかと思いますので、そういったところも話題にさせていただいてはどうかと思います。

委 員 中学校部活動の地域移行についてですが、スポ少には中学生は入れるのですか。

委 員 中学校までです。私たちが指導していたときは、甲賀町の場合ですが中学生までで900人くらいおられたと思います。

委 員 今は高校生まで入っていただけます。剣道などでは中学生も入っていただいています。

委 員 いつからか中学生がスポ少からいなくなっています。

委 員 中学生の部活動について、国が示しているようにまず土日をやめる、地域に返すという中で、競技性を求めている子どもたちは県の協会や民間のクラブチームに行っています。学校の部活動を続けている子どもの中でも土日の部活動がなくなったらどうするのかが見えてきませんが、野球をやっている子は土日続けてやりたいという子と総合型でやっておられるようないろいろな種目で運動を楽しみたいという子もいます。市内には6つの中学校がありますが、それぞれがその地域で受け皿を作るのはとても無理だと思います。指導者がおられて競技性を求める子供ができる受け皿をどう作ったらいいのかということで、すでに軟式野球、ソフトボール、サッカーなどでは、単独で活動できず合同で組んで、土曜などは甲賀中と城山中とが城山中と一緒に練習するというのもあるので、単独でできないチームの子どもたちが集まって競技性を求めてやれる受け皿を何とか作ってやりたいと思っています。最終的に部活動をなくす方針も国から出ていますが、個人的にはさっき言っていただいたような意義があるので、今は夏休みですが部活動がなくなったら子どもたちは何をするのかかえて心配です。完全になくなるのはずっと先かもしれませんが、教員の考え方も変わってきていますし、国の方針を踏まえ土日は指導しなくていいと考える教員もいますので、土日の部活動が本当になくなっていく方向であるとは思いますが、スポ少、スポーツ協会、総合型などと連携を取りながら、競技性を求める子とスポーツを楽しみたい子とその機会を確保してやるのがこれから3年間の課題であると思っています。あと、事務局にお聞きしたいのですが、重点施策の中の例えば「学校と地域の連携」の中で「スポーツ協会や総合型地域スポーツクラブなどの指導者との連携を推進し、指導者の発掘に努めます。」「指導者や支援者の

情報を共有し、競い合いや学び合いを含む交流事業を実施します。」といった部分の主語が分かりません。交流事業の場合は市だと思いますが、誰がやるのかが明確になるといいと思います。

事務局 分かりやすい表現に変えていきたいと考えております。想定では市が主体と考えております。

委員 市が主体でやっていただくのなら、例えばコロナで部活動が中止の時がありましたが、趣旨を理解されている保護者はクラブチームへも行かせておられません。ところが、部活動は中止でもクラブチームは活動を中止しませんし、このクラブチームの場合はあまり行儀がよろしくない状況です。ですので、市のルールとしてそういうことが決まればそこは施設を使わせないということをきちっとやらないといけないと思います。今後、民間のクラブチームに中体連出場が認められれば、そこだけが優勝していくようになると思います。プロを目指すのでそこでやっていくというなら、どこまでもやればいいと思いますが、それなら経費をかけてそのための施設でやってほしいと思います。一般の市民の使うところをご遠慮願いたいです。ルールを守ってもらえるならいいのですが、統ルールをきちっとしておかないといけないと、コロナ禍でしみじみと思いました。本当は練習したいのに、仕方なく一人で走っている子もいました。県でも優秀な記録を持っている子もいます。クラブチームをどうしていくかはここで整理しておかないといけないと思います。スポ少の方はよく感じておられると思いますが、教育委員会側ではあまり見えてこない部分だと思えます。優秀な選手は注目されますし、欲しいし、でも、健全な育成の中でガバナンスを守ってやっているところでそういう指導者が必要です。そういう指導者研修を、自分たちでも開催したいし、そのレベルアップをしないとこれからの総合型のクラブでも世間から認めていただくクラブを育てようとするところをはっきりするようにしないといけないと思います。

会長 スポーツ協会に加盟している団体などであれば把握できますが、民間になるとしにくいと思います。

委員 把握しにくいと思いますが、地元でチームをつくって登録していれば、学校施設が使えます。活動している方は同じですが、名前を変えて二重で体育館とグラウンドをおさえることもあります。そういうところはきちっと見ていかないといけないと思います。甲賀市は施設がきちっとあり、新たにオープンした土山開発センターでもいろいろと使い道があると思っています。せっかくの施設なので、うまく活用できればと思います。

事務局 そうした実態について、事務局サイドでは把握できておりません。そのようなことはあってはならないと思いますので、実態について一度調査をさせていただいてある程度方向性を決めていかなければならないと思います。

委員 しかし、性善説に立ってやらないと運営できないとは思いますが、例えば、何人かずつ違う名前で登録されれば分からないと思います。

事務局 それが本当に同一チームなのかという実態の把握はしづらいとは思いますが、そのあたりも考えていかなければならないと思います。

委員 スポーツと運動はもろ刃の剣のようなもので、健康増進といういい面もありますが、やり方を間違えるとけがをしたり後遺症を残したりいろいろありますので、医療的な知識を持っているのは大事だと思います。国の計画の資料の裏面に医療・介護との連携と

ありますが、市の計画でもスポ少の指導者の研修といったことを書いていただいているが、これは医療的な指導も含むのかということを確認したいと思います。それと、市の計画の中に健康教室とありますが、健康のためにジムに行き首が痛くなったとって病院に来られる方もおられます。中には偏った指導をしているケースもあるので、そのあたりの医療的なチェックはしっかりした方がいいと思います。

会長 スポーツ協会にかかわることですが、各加盟団体を対象にした講習会としては、令和元年度に「睡眠から考える健康な体づくり」、令和2年度に「コロナ禍におけるストレスと上手に付き合う方法」について実施しました。令和3年度はコロナの影響で中止となりましたが、今年度は「スポーツと栄養」について、取り上げる予定です。スポーツ傷害やけがの予防についての研修はできていませんが、今後の課題として取り組んでいきたいと思います。事務局からお答えをお願いします。

委員 市の関係で、スポーツ推進委員で活動している部分については、運動プログラムの中で参加される方の健康状態をチェックしています。コロナということもありますが、それ以前にエビデンスのきいた形で、市から委嘱を受けている活動については血圧測定やチェックシートによる健康確認を行ってから、スポーツ指導しているのが実情です。

委員 備品でいえば県スポーツ協会から補助金をいただいたので、酸素濃度計などをそろえ配布することができました。登録認証になってくると講習会などを年1回以上受ける必要がありますが、逆にそこが整理できたので、私の資格でもスポ少でも見に行けるようになりました。一方で、先ほども出ていたように資格に対する費用も必要ですし、例えば日本スポーツ協会だと自費で講習会を受けなければならないこととなります。こうした費用はどこかで見ていただく必要があると思います。

委員 障がい者のスポーツについて、障害者スポーツ協会では楽しむスポーツと競技のスポーツと2面性を持ちながらやっています。楽しむスポーツというのは新しいスポーツとかボッチャなどの誰でもできる競技について楽しむ、とにかく1回参加してみるというような事業と、全国大会目指してがんばろうという競技性のものと2面性でやっています。いろいろと2025年に向かってやっていますが、昨年は東京でオリパラがあり、初めてテレビでパラ競技を見ていただいた方には感動を受けていただいたと思います。国民の方が感動いただいたのを甲賀市でどれくらい関心を持っておられるかという意識調査が必要ではないでしょうか。2025年に向かっては市民の盛り上がりが必要で、小中高や年代ごとに障がい者についてどういう感じを持っているのかということが必要であると思います。将来的に共生社会が実現するための方針は県も同じように思っていますし、甲賀市も方向性は同じだと思います。3年度の書面開催の時に意見として、アンケート調査をして、その結果を踏まえ、市としてどのように進めていくかという意見を聞かせてほしいということを書いています。市としてどのようにこの意見をとらえておられるのかは聞かせていただきたいと思います。それと、2025年に向かって、ボッチャ競技、フライングディスク競技は甲賀市で実施いただけるということで、障がい者スポーツが甲賀市は大きく前進するのではないかと考えている。それについては、ボランティアもたくさんいます。国スポのように自分でできるようなスポーツではありませんし、ボッチャは特に重度の障がい者のスポーツです。一人ではできない方がおられます。当然、車いすですし、立位の方でも歩けない方など、そういう

方がおられます。ボランティアの募集も早くやっていただき、障がい者を理解してやっていただきたいと思います。3年というとあつという間に来ますので、地元がそういう姿勢を出していただければもっと盛り上がってくると思います。特にボッチャでは、高校生がボッチャ競技に興味を持ち、クラブを作って参画したいという思いも聞いています。高校は県になりますが、1つのクラブをつくるのはそう簡単ではないとも聞いています。しかしながら、これから大学、社会へ向かう大事な時期に、障がい者と一緒になって取り組もうという思いの方が高校生の中から出てきたということは大事にしていかなければならないと思っています。障がい者スポーツの理解促進、ボランティアの参画、広報活動も含めてお願いできないでしょうか。

事務局 スポーツ推進計画を策定する際にも市民の意識調査をさせていただき、計画に掲載しております。ただ、そこから4、5年たっているということもございますし、先ほどご紹介いただきました東京オリパラにより、どのように変化したのか把握にも努めていきたいと思っています。2025年の大会に向けては、ちょうどいいタイミングといえますか、地域スポーツの在り方、中学校部活動の地域移行の動きも今後3年間で動いてまいります。それぞれの課題が各分野であろうと思いますが、丁寧にお聞きしながらそれぞれの団体の活動がもっと活発になり、それぞれの課題が少しでも解決するように努めてまいりたいと思っています。予算についても、スポーツ振興に向けて努力してまいります、まずは、備品の整備にも取り掛かりたいと思いますし、大会に向けてのボランティアの確保についても当然県が主体的に采配いただけたらと思います。市独自の実行委員会がございますし、若者の意見も取り入れたいと思います。先ほどご紹介いただいた高校生の心意気などは心強く思いますので、そういった動きが2025年に向けてよいスパイラルとなるよう汗をかいてまいりますので、よろしく願いいたします。

会長 時間もあまりございませんが、またご発言いただいている方、それぞれのお立場でございましたらご意見をお願いしたいと思います。

委員 個人的にですが、地域で65歳を超えるとゆうゆう会に入らなければなりません。最初に挙がるのは体育部長という役で、務めることになったのですが、情報が会の中になく、総合型地域スポーツクラブでやることにした。その年齢層に情報がなかなか入ってきません。会員の中では何をしたらいいかということがあります。コロナで屋外活動になるならボッチャの代わりにペタンクをやったらいいななど、普段やっている者は分かりますが、毎年交替する役員では無理です。そういうところの指導とか相談窓口とかいったものが周知できていないと思います。スポーツ推進委員にお願いすれば指導いただけたらと思いますが、派遣の依頼すらご存じなかったというのが気になります。もう1つは、幼児ですが、これからのお客さんになる大事な存在ですが、スポ少ではACPをさせているが、滋賀県では36の動きを取り入れたPICという幼児向け運動プログラムを作成しており、指導できるクラブ関係者が12人くらいいる。滋賀県の指導者資格としようとして動いている。その中で、幼稚園や保育園、子育て支援センターなどと連携し、若いお母さんと遊んでもらう。必要な運動によりばたんと倒れるような子がいないようにしていきたい。県では予算化されていますが、なかなかできるクラブがないのと、私たちが本業を持ってボランティアでやっているのだから、連携が取りづらい。連携をとるために大事なものは事務局員であり、100万円もいらないうのでその費用をお願いでき

ば、中学校なども含め密な連携や連絡の基礎が大事なので、職員に来ていただくのもいいのですが、事務的な部分の支援をやっていただきたい。

委員 ゆうゆう甲賀クラブについて、市内では水口だけでなく、旧4町で活動しています。健康づくりを含めまして、グラウンドゴルフ大会は春と秋のほか、市の大会があります。このほか、資料にスポーツ推進委員の運動指導を挙げていただいたが、連携が取れておらず独自でやっているの、特に、健康推進員の100歳体操など各地域のクラブでやっているが、指導的な面を含めた中で、どういう連携をすればいいかわからないので、指導的な立場の方の援助をお願いしたい。シニアについてのアドバイスというか健康づくりを含めた指導的な立場の方の派遣をお願いできればと思います。

委員 健康推進員の活動は100歳体操などに取り組んでいるが、コロナ禍で難しい状況になっています。今、小さいお子さんから中学校、高校、成人の方の運動について協議されていますが、高齢者にとっては、スポーツということに至っていなくても、体を動かすということをやっていくのが非常に大事なことです。100歳体操などの運動で活動していましたが、コロナ禍で動きづらい状況になっています。推進員としてもどのようにかかわればというのが悩みのところ。健康推進員としましては、屋外でできるウォーキング等の推進をしているところです。令和3年度には健康推進員運動部でアンケートをしましたが、500人いる推進員のうち約45%がウォーキングなどをされています。約80%が健康のためであり、家の近所など身近に運動されているようですが、そうした身近な運動を健康推進員としてはやっていきたいと計画しています。高齢者の方の運動についても十分考えていかなければならないと思っています。

委員 高齢者の運動についてはサロンで取り組まれているが、その中心は民生委員です。総合型地域スポーツクラブとの連携はありません。

委員 65歳以上の高齢者の方々のご相談の場というのが地域包括支援センターであり、健康相談などの窓口でもあります。健康推進員もおられますし、取っ掛かりとして理学療法士の指導もセンターで動かせる部分もありますのでうまく使っていただければと思います。

委員 健康運動実践士とスポーツ指導員とは名称は違いますが、同じことをやっています。例えば、ウォーキングでも体にいいウォーキングと効果のないウォーキングがあります。健康のためにされているつもりでも、もったいないと思うこともあります。どこにお金をかけてもらうのかというと靴だけでいいといった指導をしています。そういったことも含めて情報の連携は全然ありません。サロンでの活動はコロナ禍で無理でしたが、遠くから講師を呼ばなくても地元におられるので、身近なところでやらないとうまくいかないと思います。私たちはどこに話を持っていくべきかというルートを知っていますし、地域の区長を当たれば分かりますが、そういったことを全体の中で皆さんに知ってもらうことが必要です。確かに区長会で説明されていますが、通り一遍の説明では分かりません。市の職員の中でも会計年度職員など理解されていない方も多いため、職員間でも情報共有や連携が必要だと思えます。その職場に入らないと分からないこともあるかもしれませんが、審議会の中で整理しておかないと中にある実際のものが見えてこないように思います。そのあたりを3年間の計画にしっかりと入れてほしいと思います。障がい者のことを真剣に考えたら、地域の人しか助けられないので、防災士の資格取得

まで必要になると思います。みんなが知っていないと助けられないのです。スポーツもそれぞれの得意分野があるので、そこに動けるように、せっかく今集まっているので協議できればと思います。甲賀市はどうもすみわけがうまくいっていないと思いますし、市の中でももう少し整理できないかと思います。

委員 初めての会議でもありますので、これからの検討していく課題としてはいかがでしょうか。

委員 それぞれの団体があり、皆さんが健康のことを考えてお話しされている会議に出席させていただきました。保育員や幼稚園でもキッズサッカー、運動遊びなどに取り組んでいますが、子どもたちは広い場所があれば走り出しますし、鉄棒があれば2歳の子でも手を伸ばしてぶら下がりたいなど、本当に体を動かして遊ぶことが本当に大好きです。今お話を聞かせていただいたスポ少であったり中学校部活動であったりとか、将来やってみたいことを思う存分できるような体づくりができる環境をつくる保育を進めていきたいと感じています。

会長 まとめということはできませんが、甲賀市のスポーツだけで1つの冊子。最初に言われたような競技スポーツと生涯スポーツ、また、教育、健康、年齢など多岐にわたっています。それぞれの立場でということと絞りにくかったということで、まとめはできませんが、お一人おひとりのご発言を事務局でまとめていただき、次の3年間に活かしていきたいと思います。連携が大切というテーマも共通理解できましたし、すみわけについてもこの会議だけでなく、市の方針として示していただき、私たちが意見を言っという形で進めて行きたいと思います。

事務局 貴重なご意見をいただきありがとうございました。連携、整理といったものが十分できていないということを感じいたしましたので、計画の見直し以前に我々の日々の仕事の中で、スキルを持った方とのお付き合いがそれぞれの部局でございますので、整理しながら、つなぎながら、発信しながら、スポーツの振興に向かうように検討していく必要があると思われました。そうした取り組みについても重点の施策の中で落とし込めるようなら検討してまいりたいと思われました。

会長 多くのご意見をいただきました。補足などがあれば事務局までお願いしたいと思いません。

○閉会

以上